

# 各種様式・ツール集(水災)

## <別紙参考資料>

No.	資料名	備考
別紙 1	緊急時対応全体像	

## <別紙様式・ツール集>

No.	資料名	備考
様式 1	モニタリングシート	
様式 2	従業員携行カード	→「大地震」様式2と共通
様式 3	早期帰宅判断シート	
様式 4	出社制限判断シート	
様式 5	水災被害防止・軽減対応マップ	
様式 6	浸水防止対策備蓄品リスト	
様式 7	高所移動備品・設備等リスト	

■ 各種様式・ツールは、A4版で設定しています。  
必要に応じて印刷時に用紙サイズをA3等に拡大して使用してください。



# 【様式1】モニタリングシート

★フェーズの判断は、モニタリング項目に関する情報をもとに「総合的に」判断

モニタリング項目				フェーズ				
大項目	小項目	情報源	URL	情報単位	状況	「事業所」で水災が発生する可能性が高い	「事業所」で水災が発生する可能性が高い	事業所の所在する「地域」で水災被害が発生（「事業所」で軽微な被害が発生した場合も含む）
					対応事項	事業所所在「地域」に水災被害をもたらす可能性のある事象が発生	事業所所在「地域」で水災が発生する可能性が高い	事業所所在「地域」で水災が発生する可能性が高い
台風情報	台風情報	気象庁「台風情報」	<a href="https://www.jma.go.jp/typh/">https://www.jma.go.jp/typh/</a>	市町村等 地域単位	3.1.2 水災関連情報のモニタリング 3.1.3(1)① 被害の防止・軽減対応 (社員個人による安全確保の準備)	3.1.3(1)② 被害の防止・軽減対応 (組織による安全確保)	3.1.3(2) 被害の防止・軽減対応 (物的被害の防止・軽減対応)	3.1.4 事業所所在「地域」で水災被害が発生した場合の対応
	台風情報	気象庁「台風情報」	<a href="https://www.jma.go.jp/typh/">https://www.jma.go.jp/typh/</a>	市町村等 地域単位	24時間以内に「暴風域」に入る確率が70%以上	12時間以内に「暴風域」に入る確率が70%以上	3時間以内に「暴風域」に入る確率が70%以上	台風上陸
河川情報	警報・注意報	気象庁「気象警報・注意報」	<a href="https://www.jma.go.jp/warn/">https://www.jma.go.jp/warn/</a>	市町村単位	洪水注意報	洪水注意報＋今後の推移で12時間以内に「警報級〔高〕」		
	河川洪水予報	気象庁「指定河川洪水予報」	<a href="https://www.jma.go.jp/flood/">https://www.jma.go.jp/flood/</a>	事業所付近の河川単位	XX川氾濫注意報	XX川氾濫注意報	XX川氾濫注意報	XX川氾濫注意報
	河川水位観測値	国土省「川の防災情報」	<a href="http://www.river.go.jp/kawabou/ipAreaJump.do?gameId=01-0201&amp;refineType=1&amp;fldCtlParty=no">http://www.river.go.jp/kawabou/ipAreaJump.do?gameId=01-0201&amp;refineType=1&amp;fldCtlParty=no</a>	事業所付近の河川観測所単位	氾濫注意水位	避難判断水位	氾濫危険水位	
降雨情報	警報・注意報	気象庁「気象警報・注意報」	<a href="https://www.jma.go.jp/warn/">https://www.jma.go.jp/warn/</a>	市町村単位	大雨注意報	大雨注意報＋今後の推移で12時間以内に「警報級〔高〕」		大雨特別警報
	記録的短時間大雨情報	気象庁「気象情報（府県気象情報）」	<a href="https://www.jma.go.jp/kishojo/">https://www.jma.go.jp/kishojo/</a>	市町村単位		大雨警報		
	1時間降水量（予測値）	気象庁「今後の雨（降水短時間予報）」	<a href="https://www.jma.go.jp/kaikotan/">https://www.jma.go.jp/kaikotan/</a>	事業所単位		12時間以内に1時間降水量が80mmを超える予報	3時間以内に1時間降水量が80mmを超える予報	
排水情報	内水氾濫危険情報	都道府県・市町村単位	各自治体HP	市町村単位			内水氾濫危険情報	
	ポンプ場の稼働状況	国土交通省	—	ポンプ場単位	XX排水機場で排水開始		XX排水機場で排水不能	
	浸水の前兆	TV等	—				事業所所在「地域」で道路冠水等の情報入手	
高潮情報	警報・注意報	気象庁「気象警報・注意報」	<a href="https://www.jma.go.jp/warn/">https://www.jma.go.jp/warn/</a>	市町村単位	高潮注意報	高潮注意報＋今後の推移で12時間以内に「警報級〔高〕」		
	高潮氾濫危険情報	都道府県HP等	各自治体HP	水位周知海岸単位			高潮警報、高潮特別警報	高潮氾濫発生情報
避難命令情報	避難命令	市町村HP等	各自治体HP	市町村単位		高齢者等避難	避難指示	緊急安全確保
鉄道運休情報	計画運休情報	TV、鉄道会社HP等	鉄道会社HP	鉄道会社単位		計画運休情報	運休情報	

# 【様式2】従業員携行カード

## 大規模地震・水災等 従業員携行カード

**大地震発生直後の行動原則**

自身/周囲の安全確保

1 自身/周囲の安全確保  
2 避難/避難場所

家族の安否確認

3 家族との連絡手段

会社への安否報告

4 安否報告ルール

2022年度版

### 1 自身/周囲の安全確保 **地震**

- 屋内にいる時
  - 机やテーブルの下に隠れる
  - 慌てて外に飛び出さない
- 屋外にいる時
  - カバン、着衣等で頭を保護する
  - 安全な建物へ避難する
  - ブロック塀、門柱、ガラス窓等に近寄らない
- 車、公共交通に乗っている時
  - 安全に左側に停車し、エンジンを止めてキーはつけたまま避難
  - 公共交通機関で被災したときは、係員の指示に従う
- 揺れがおさまったら
  - 初期消火
    - ※火が天井に届いていたら、あきらめ逃げる
  - ドアや窓を開けて避難ルートを確認する
  - 救助活動は、周囲と協力し無理のない範囲で実施する
  - 二次災害に気を付けて行動する

### 1 自身/周囲の安全確保 **水災**

- 気象情報に注意  
テレビやラジオで気象庁の災害情報等の収集に努める
- 避難情報  
各自治体から「避難情報」が発令されたら、速やかに行動する。

警戒レベル	避難情報等	避難行動
レベル5	緊急安全確保	・既に災害が発生 ・命を守るための最善の行動をとる
レベル4	避難指示	・速やかに避難先へ避難 ・公的な避難場所までの移動が危険と思われる場合は、近くの安全な場所や自宅内のより安全な場所へ避難
レベル3	高齢者等避難	・避難に時間を要する人(ご高齢の方、障害のある方、乳幼児等)とその支援者は避難 ・その他の人は、避難の準備を整える

### 2 避難/避難場所

- 避難する場合
  - 落ち着いて避難を開始する
  - 海岸近くにいる場合は、高台に逃げる
  - できるだけ周りの人と一緒に行動する
  - ブレーカーを落とし、ガスの元栓を閉める
  - エレベーターや車を使わず、徒歩で避難
  - 非常持ち出し袋を持つ
- 避難場所  
※地震と火災の避難場所は異なる場合があるので確認すること  
＜勤務地を基点とした避難場所・避難所＞  
XXXX  
＜自宅を基点とした避難場所・避難所＞  
避難場所：大きな公園や広場などの緊急避難用の施設または場所のこと  
避難所：小中学校等の一時的に滞在する場所のこと

### 3 家族との連絡手段

電話、携帯等の連絡手段がつかない場合、災害時※に設置される災害用伝言ダイヤル「171」(NTT)が利用できる  
※震度6弱以上の地震等の災害発生時

**災害用伝言ダイヤル「171」の使い方**

伝言を録音する      伝言を再生する

↓      ↓

171をダイヤル      ↓

1      2

↓      ↓

被災地にあるご自身または連絡を取りたい方の電話番号  
(固定電話、携帯電話等の番号を市外局番から入力)

↓      ↓

録音 (30秒以内)      音声ガイダンスに沿って操作      再生

上記の他、災害時はNTTによる「web171」や携帯電話会社(ドコモ、au、ソフトバンク)による「災害用伝言板」が開設され、メールでも伝言を送ることができる

### 連絡先等

- 会社:  
XXXX-XX-XXXX
- 会社(上長):
- 家族 等

### 帰宅指示・判断基準

- 原則として会社の指示に従う

＜地震＞

- 公共交通機関が不通の場合、または道路に大きな損傷等が認められる場合は、原則として会社の指示に従い、事業所又は他の安全な場所に滞在または宿泊する
- 徒歩で帰宅する場合は、以下の点に注意し帰宅すること

＜注意点＞

- ・徒歩毎時2.5kmで計算すると10kmは4時間を要する(革靴では10kmが限界)
- ・夜間の行動は避ける
- ・余震が収まってから帰宅する
- ・帰宅路の安全を確認する
- ・同一方向はできるだけ集団帰宅する
- ・幹線道路を使い帰宅する

＜水災＞

- 「今後、帰宅が困難な状況が発生※」する事が予測される場合は、帰宅を避け、安全な場所に退避する  
※ 特別警報や避難命令の発令、交通手段の使用不能など

### 4 安否報告ルール

- 災害発生時は、口頭、電話、メール等で必ず会社または所属部署の上長等へ自身の安否を報告する。

※ ライングループ(会社)で情報を交換する。

**安否報告内容:**

- 名前・所属
- 本人及び家族のけがの有無  
＜加えて、就業時間外の場合＞
- 自宅状況
- 出社可否
- 連絡先電話番号

- 災害発生時に会社にいる従業員は、点呼を実施の上、点呼結果を上長へ報告する。

# 【様式3】 早期帰宅判断シート

## <基本方針>

- 水災によって「**今後、帰宅が困難な状況が発生**」することが予想される場合、帰宅させるか否かを検討
- 「**帰宅途上の安全を確保**」するため、以下の状況が確認・予測できる場合は、帰宅させない
  - ・交通手段が使用できない
  - ・特別警報が発令される等、帰宅途上の安全が保障できない

## ■「今後、帰宅が困難な状況が発生」することが予測できる状況とは？

→以下を確認して総合的に判断

No.	情報区分	確認事項	チェック結果
1	台風	事業所地域が <b>12時間以内に「暴風域」</b> に入る確率が <b>70%以上</b>	
2	河川	事業所地域に <b>洪水注意報発令</b> かつ今後の推移で <b>12時間以内に「警報級[高]」</b> になる可能性あり	
3	河川	事業所地域で <b>洪水警報発令</b>	
4	河川	近隣河川が <b>避難判断水位</b> に達する	
5	降雨	事業所地域に <b>大雨注意報発令</b> かつ今後の推移で <b>12時間以内に「警報級[高]」</b> になる可能性あり	
6	降雨	事業所地域に <b>大雨警報発令</b>	
7	降雨	<b>12時間以内に1時間降水量が80mm</b> を超える予報が発令	
8	高潮	事業所地域に <b>高潮注意報発令</b> かつ今後の推移で <b>12時間以内に「警報級[高]」</b> になる可能性あり	
9	避難	事業所地域で <b>避難指示発令</b>	
10	鉄道運休	事業所地域で <b>計画運休情報</b> が発信	
11	災害規模	大きな被害が発生する旨の報道あり	
12			

## ■帰宅途上の安全が確保できない状況とは？

→以下を確認して総合的に判断

No.	情報区分	確認事項	チェック結果
1	交通手段	車が使えない(マイカー通勤の場合)	
2	帰宅までの時間	帰宅(徒歩)による帰宅	
3	水災被害発生 の切迫性	特別警報が発令されている(事前に帰宅命令)	
4			
5			

# 【様式4】 出社制限判断シート

## <判断のタイミング>

●就業時間中に、「翌日の」出社制限につき判断

## <基本方針>

●水災によって「翌日午前中に出社が困難な状況が発生」することが予想される場合、出社制限を実施

●出社制限が実施された場合、社員は、会社から連絡があるまで自宅待機

※会社ライングループで情報交換する

## ■「翌日午前中に出社が困難な状況が発生」することが予測できる状況とは？

→以下を確認して総合的に判断

No.	情報区分	確認事項	チェック結果
1	台風	事業所地域が12時間以内に「暴風域」に入る確率が70%以上	
2	河川	事業所地域の洪水に関する警報・注意報が今後の推移で12時間以内に洪水「警報級【高】」になる可能性あり	
3	河川	近隣河川が避難判断水位に達する。	
4	降雨	事業所地域の大雨に関する警報・注意報が今後の推移で12時間以内に「警報級【高】」になる可能性あり	
5	降雨	12時間以内に1時間降水量が80mmを超える予報が発令	
6	高潮	事業所地域の高潮に関する警報・注意報が今後の推移で12時間以内に「警報級【高】」になる可能性あり	
7	避難	事業所地域で避難指示発令	
8	鉄道運休	事業所地域で計画運休情報が発信	
9	災害規模	大きな被害が発生する可能性を指摘する報道あり。	
10			

## 【様式5】水災被害防止・軽減対応マップ

【マップ】

本社図面や水災被害防止策などを掲載

### 水災被害事前防止対策

#### ①屋外品の撤収・養生

- ・風に飛ばされる可能性のあるもの、水に流される可能性のあるものを可能な限り屋内に片付ける
- ・移動が不可能なものはブルーシートやテープ、ロープ等を用いて養生する

#### ②建物の浸水防止

- ・水の侵入が想定される出入り口扉や地下入口等に土のうや水のう、止水版を設置して建物内への浸水を防ぐ

#### ③建物内備品・備品等の高所移動

- ・建物内に浸水したことを想定して、建物内の重要な備品、設備、書類等を高所に移動させる

#### ④車両の高所移動

- ・敷地内に浸水したことを想定して、駐車場の車両を高所に移動させる

#### ⑤設備等の保護・電源停止

- ・事務所内に高所の保管スペースがある場合は、高価な機械類や重要書類等を可能な限り移動させる
- ・避難する前に、可能な限り電気を使用する全ての危機の電源を落とし、コンセントを外す
- また、電気ブレーカーを切り、ガス・水道の元栓を締める





